

1. 科目名 (単位数)	英語学演習 II (意味論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3305
2. 授業担当教員	阿部 裕子		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の1つの分野である意味論 (Semantics) に焦点を当てて学習する。まず、意味論は言語 (日常言語) の意味を研究対象とするが、本講座では、「意味の分析」「意味関係」「テキストと意味」「意味変化」などの分野を取り上げる。このような分野を通して、言葉の意味、日常語の曖昧性と類似性、いくつかの文からなる「テキスト」(「談話」ともいう) の構造、意味の変化の原因や分類などの考察を試みる。そして意味論の学習を通して、英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を知り、理解を深めていく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解している。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解している。 3. 意味関係について学習し、意味の曖昧さの原因を知り、同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できる。 4. 意味変化の原因と分類の仕組みを学習し、英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を理解することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	プレゼンテーションとレポート課題 <ol style="list-style-type: none"> 1. 意味論の知見を英語教育にどう活用するかについてのプレゼンテーション 2. 意味論の知見をまとめ、英語教育への応用に関するレポート 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池上嘉彦『テイクオフ英語学シリーズ3 英語の意味』大修館書店、1996。 【参考書】 松本曜『認知意味論』大修館書店、2003。 山内信幸・北林利治 共編著 『現代英語学へのアプローチ』英宝社、2014。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の音声の仕組みについて学習し、理解しているか。 2. 英語の文章構造を含めた英語の文法について学習し理解しているか。 3. 意味関係について学習し、意味の曖昧さの原因を知り、同義性と反意性の理解を深め、英語の語彙指導を行う際の留意点について考察できるか。 4. 意味変化の原因と分類の仕組みを学習し、英語の歴史の変遷と国際共通語としての英語の実態を理解することができるか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の 30% 2 復習テスト・レポート 総合点の 30% 3 期末テスト 総合点の 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	意味論は大変興味深い分野であり、語学教育への応用が可能です。専門用語が出てきても難しく考えず、ぜひ皆さんが普段使用していることば遣いや身近な会話に当てはめて考えてみてください。本演習は、受講生の積極的な議論が前提となっています。指定された教科書の範囲を必ず読み、自分なりに理解した上で演習に臨み、皆さんの素朴な疑問や感想を述べ、意見やアイデアを発表して下さい。本演習で共有された議論や考察を、授業研究や教材開発に積極的に活用してみましよう。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。 授業担当教員メールアドレス : hiabe@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction 講義概要・学習目標・評価方法 1. 日常の言語生活の中の「意味論」	事前学習	第 1 章(pp. 3-10)を読み、重要語句に印をつける。
		事後学習	学んだことを復習し、意味論の全体像を把握する。
第 2 回	2. ことばの意味 ①「意味」の意味、②「意味」と「指示物」(ずれ、「虚の世界」、「婉曲」「皮肉」「PC 表現」)	事前学習	第 2 章(pp. 11-25)を読み、「意味」と「指示物」にずれがある事例について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 25 の練習問題に取り組む。
第 3 回	3. ことばの意味と辞書 ①辞書とは、②英和辞書と英英辞書、③native speakers 用と non-native speakers 用の辞書、④外国人のための英英辞書の利点	事前学習	第 3 章(pp. 27-54)を読み、辞書の特徴、英和辞書の限界、英英辞書の特徴について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 54 の練習問題に取り組む。
第 4 回	4. 語彙の中の意味関係 (1) ①同義性(意味のずれ (上下関係、非両立性) 文体的価値のずれ)、②反意性(相補的關係、連続した尺度、反対関係)、③タクソノミー	事前学習	第 4 章(pp. 55-62)を読み、同義性や反意性の特徴や種類について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 69 の練習問題 (1-4) に取り組む。
第 5 回	4. 語彙の中の意味関係 (2) ④場の理論、⑤コロケーション、⑥ゲシュタルト、⑦意味の比較(kill と cause to die、look と see、英語の運動の動詞)	事前学習	第 4 章(pp. 62-69)を読み、語彙の意味がその周りの関係性においてどう変わっているかについて理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 69 の練習問題 (5-8) に取り組む。
第 6 回	5. 文法と意味 (1) ①文法と意味の問題、②構文と意味 (1) [能動] 対「受動」(行為と変化)、(2) 前置詞句と間接	事前学習	第 5 章(pp. 71-85)を読み、これまで書き換え可能だと学んできた 2 つの文の意味の違いについて理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 92 の練習問題 (1-2) に取り組む。

	目的語の交替(移動と所有)		む。
第7回	5. 文法と意味(2) ②構文と意味(3) 直接目的語と前置詞句の交替(移動と状態変化)、(4)従属不定詞句の目的語から主文の主語へ(行為と行為の対象)	事前学習	第5章(pp. 86-92)を読み、書き換えができない構文について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 92 の練習問題(3-5)に取り組む。
第8回	6. 意味とコンテキスト(1) ①「文字通りの意味」と「伝えられる意味」、 ②「伝えられる意味」の要素(指示機能、発話行為、背景となる知識、会話の原則)	事前学習	第6章(pp. 95-101)を読み、「文字通り」ではない「伝えられる意味」の要素について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 102 の例文にかくされた意味の解釈に挑戦する。
第9回	6. 意味とコンテキスト(2) ③会話の含意、④メタファーの位置づけ、⑤語用論の広がり	事前学習	第6章(pp. 102-110)を読み、「会話の含意」や「語用論」について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 110 の練習問題に取り組む。また、既習学習内容の英語教育への応用を考察する。
第10回	中間テスト 既習学習内容の理解度の確認・質疑応答、各自が考察した英語教育への応用の共有、最終回実施予定プレゼンテーションの説明	事前学習	中間テストに備えて、既習事項をまとめておく。
		事後学習	中間テストで間違えたところを重点的に復習しておく。最終プレゼンテーションテーマの検討を始める。
第11回	7. 意味の変化 ①語の意味変化(意味の特殊化、意味の一般化、意味の向上、意味の下落)、②意味変化の原因(社会における語の移動、語の意味と指示物とのずれ、語彙体系の変化)、③意味変化の仕組み(意味の類似性、近接性、語形の類似性、近接性)	事前学習	第7章(pp. 113-133)を読み、語の意味変化の種類、意味変化の原因、意味変化の仕組みについて理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 133 の練習問題に取り組むとともに、英語教育への応用を考察する。
第12回	8. 意味の修得 ①意味修得の段階(喃語期、象徴化の成立、言語運用能力の発達、意味関係の発達)、②概念形成と意味の組織化(修得順序の一般的傾向)、③比喩的な意味(認知の発達、比喩の理解、新しい意味)	事前学習	第8章(pp. 135-155)を読み、意味修得の発達段階、比喩的な意味について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 155 の練習問題に取り組むとともに、英語教育への応用を考察する。
第13回	9. 意味の普遍性と相対性 ①「分節」の体系としての言語、②異なる言語間での対応とずれ、③「親族用語」「色彩用語」などにおける普遍性と相対性、④英語と日本語の対照例	事前学習	第9章(pp. 157-176)を読み、意味の普遍性と相対性について理解する。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 176 の練習問題に取り組むとともに、英語教育への応用を考察する。
第14回	10. 意味と文学 ①ことばとしての文学、②ことばの実用的機能と、詩的機能、③ことばの芸術の諸相 既習学習の総まとめ 既習事項の重要ポイントの確認と質疑応答	事前学習	第10章(pp. 177-195)を読み、意味と文学について、特にことばの芸術的特徴を理解する。また既習内容を総復習し、不明な点を確認し、質問内容を考えておく。
		事後学習	学んだことを復習し、p. 195 の練習問題に取り組むとともに、英語教育への応用を考察する。またプレゼンテーションの発表内容を作成する。
第15回	プレゼンテーション 意味論の知見の英語教育への応用について、各自考察してきたことを発表し、質疑応答や議論を通してそれぞれの理解を深める。	事前学習	プレゼンテーション発表の準備をする。実際に声を出して練習し、質疑応答にも対応できるようにしておく。
		事後学習	自分が発表した意味論の知見や質疑応答や議論を通して深化した考察についてレポートにまとめておく。期末テストに備え、既習内容の整理を行っておく。
期末試験			